第 16 講　江戸時代Ⅴ

1　大御所政治〔文化・文政時代〕

寛政の改革後，政治的意欲のない**11 代将軍家斉**(いえなり)の治世(1793 年～1841 年)。

☆1837 年，将軍引退後も**大御所**として実権を握り続ける。

☆社会不安が増大する中，江戸を中心に享楽的(きょうらくてき)・退廃的(たいはいてき)な**化政文化**が開花。

---

①性格

A　文化年間(1804 年～18 年)

老中松平信明(のぶあきら)ら“寛政の遺老(いろう)”が幕政を主導。寛政の改革の質素・倹約政策を継承。

B　文政年間(1818 年～30 年)

老中首座水野忠成(ただあきら)が幕政を主導。品位の劣る貨幣を大量に流通させ物価は上昇，賄賂(わいろ)政治が横行し，将軍や大奥の生活は華美を極める。

---

②社会不安⇒“内憂(ないゆう)と外患(がいかん)”

農村・都市で階層分化が進行。無宿人(むしゅくにん)・博徒(ばくと)が横行し，**大都市とその周辺の治安が悪化。**

A　**関東取締出役**(とりしまりしゅつやく)**〔八州廻り**(はっしゅう)**〕**の設置(1805 年)

幕領・私領・寺社領を問わず，**水戸藩を除く関八州の治安維持**にあたった。

B　**寄場組合**(よせば)の結成　(1827 年)

幕領・私領・寺社領を問わず，関八州すべての農村 40～50 カ村ごとに組合を結成させる。

☆近隣の村々が協同で治安維持・風俗取締りに当たり，農村秩序の維持などをはかった。

C　**文化の撫恤令**(ぶじゅつ)**〔薪水給与令**(しんすい)**〕**　**(1806 年)**

D　**異国船打払令**(うちはらい)**〔無二念**(むにねん)**打払令〕**　**(1825 年)**

E　**モリソン号事件**　**(1837 年)**

F　**蛮社**(ばんしゃ)**の獄**(ごく)　**(1839 年)**

---

③大塩の乱（1837年）

A　**原因**

天保の飢饉（1833年～36〔39〕年）に対する幕府の無為無策，豪商の米買占めなどへの憤激。

☆1836年の飢饉はとくに厳しく，甲斐国郡内地方・三河国加茂郡（ともに幕領）でも一揆が起きた。⇒**郡内騒動・加茂一揆**

B　**蜂起**

大坂町奉行所の元与力大塩平八郎と門弟らが，町奉行殺害と豪商の襲撃を計画。

☆大塩は**陽明学者**で，家塾「洗心洞」を開いていた。

C　鎮圧

檄文を配布して貧民に参加をよびかけたが，密告や準備不足により，わずか半日で鎮圧。

D　**影響**

あ　**幕府・諸藩へ大衝撃を与え，幕府の権威は失墜**

重要直轄都市で，幕府の元役人が主導し，公然と武力で反抗したため。

い　**全国へ波及**

大塩門弟と称した**越後国**柏崎の国学者による**生田万の乱**（1837年）の他，各地に一揆・打ちこわしを誘発。

☆江戸には幕府が御救小屋を多数設置して米や銭を施し，打ちこわしを未然に防いだ。

---

④朝廷権威の浮上

国内外の危機的状況に対し，将軍・幕府の権威が失墜すると，これにかわる上位の権威としての天皇・朝廷が求められ始めた。

☆光格天皇・仁孝天皇から復古的な思想が打ち出され，また公家たちも財政に苦しむ中で各種免許状を発行して収入を得ようと活動するなど，朝廷の権威浮上を求める動きが広まった。

２　天保の改革

12代将軍家慶の初期治世。**老中首座**となった**水野忠邦**（浜松藩主）が，幕政の再建・強化をめざし，改革を強引に推進。**（1841年〜43年）**

①性格

復古理想主義⇒享保・寛政の改革を手本とする。

---

②生活の緊縮

A　**倹約令**

将軍・大奥を含めた断固たるもので，贅沢な菓子・料理や華美な衣服の禁止など，生活の細部にまで及んだ。

B　風俗取締り令

南町奉行鳥居耀蔵が中心となり推進，江戸における経済活動の停滞を招いた。

あ　芝居小屋の浅草への移転

い　歌舞伎役者に編笠着用を強要

う　寄席の大量取り潰し

C　**人情本・合巻の処罰**

為永春水『春色梅児誉美』（人情本），柳亭種彦『偐紫田舎源氏』（合巻）を発禁処分。

---

③農村復興策

A　**人返しの法〔人返し令〕（1843年）**

江戸の人別改めを強化し，農民の出稼ぎ禁止・流入貧民の帰村を**半強制**。

☆都市人口の抑制と荒廃した農村の再建をはかるが，江戸を追われた無宿人らにより，かえって治安が悪化し失敗した。

B　印旛沼掘割工事　　　（1843年）

田沼時代の干拓に引き続き工事を試みたが，またも中断された。

---

④経済統制

A　**株仲間解散令（1841年）**

物価引下げと商品流通の直接統制をはかるが失敗，かえって物価の上昇・流通関係の混乱を招いた。

☆1851年，老中首座阿部正弘（あべまさひろ）が**株仲間再興令**を発布。都市問屋商人＋在郷商人で再興させ，冥加（みょうが）も免除した。

B　**棄捐令（きえんれい）**　（1843年）

札差（ふださし）からの借金のうち，半分は幕府が公金（こうきん）を出し免除，残り半分は無利息で年賦（ねんぷ）返済とした。

☆旗本・御家人の救済をはかるが，一時的効果のみに終わる。

---

⑤対外政策の緩和

アヘン戦争（1840年～42年，○イギリスvs清●）の結果を受け，従来の異国船打払令を撤回，**天保の薪水給与令**を発布（1842年）。

---

⑥政治統制

A　西洋砲術の採用

長崎から**高島秋帆**(たかしましゅうはん)を招き，江戸郊外で西洋砲術の訓練を実施。

B　**三方領知替え**(さんぽうりょうちがえ)の撤回(てっかい)(1841年)

相模国の海岸防備を担わせていた川越藩(かわごえはん)〔武蔵国〕の財政難救済のため，1840年に転封(てんぽう)を決定(川越藩⇒庄内藩(しょうないはん)〔出羽国〕，庄内藩⇒長岡藩〔越後国〕，長岡藩⇒川越藩)したが，大名・領民からの反対(庄内藩では反対一揆が発生)により，翌年撤回。

☆幕府に対する藩権力の自立，幕府の土地支配権の動揺が露呈(ろてい)した事件。

C　将軍家慶による67年ぶりの日光社参(1842年)

幕府権力の起死回生をはかるが，大出費による財政悪化と動員された農民たちの不満をもたらした。

D　**上知令(あげちれい)(1843年)**

領地支配が錯綜(さくそう)していた**江戸・大坂周辺約50万石の幕領編入計画。幕府権力の強化・年貢収入の増加・対外防備の強化を意図したが**，譜代大名・旗本・農民・町人らの**総反対により撤回。**

☆**水野忠邦は失脚**，反対派の土井利位(どいとしつら)が老中首座となる。

---

⑦結果

過度(かど)の強引さ・厳しさにより，世人(せじん)の不満が爆発し失敗。**幕府は決定的に衰退。**

３　後期の藩政改革⇒藩政改革に成功した藩は，幕末に**雄藩**(ゆうはん)として活躍。

①特色

A　**人材の登用**

中・下級武士の有能者を積極的に登用。

B　財政の再建

借財の整理，国産品の奨励，**藩営工業**や**(藩)専売制**の実施など。

C　藩権力の強化

百姓一揆・打ちこわしなど領民抵抗の圧伏と，軍事力の強化。

---

②薩摩藩〔鹿児島藩〕⇒77万石の外様(とざま)

藩主島津斉興(なりおき)の祖父重豪(しげひで)が下級武士の**調所広郷**(ずしょひろさと)を登用(1827年～)。

A　財政再建

あ　三都の商人からの藩債500万両無利息250年賦返済

☆事実上の借金棚上げ。

い　奄美三島(あまみさんとう)〔大島(おおしま)・徳之島(とくのしま)・喜界島(きかいしま)〕特産の**黒砂糖**〔甘蔗(かんしゃ)〕の専売を強化

う　**琉球王国を通じた清との密貿易**を拡大

☆こういった点にも幕藩支配のゆるみがみられる。

B　軍事改革(幕末期)

あ　**島津斉彬**(なりあきら)・忠義(ただよし)の代に，**反射炉**・兵器工場・造船所・ガラス製造所(洋式工場群を**集成館**(しゅうせいかん)という)を建設。

☆のち，わが国初の機械紡績(ぼうせき)工場である鹿児島紡績工場も完成。

い　**長崎のイギリス人商人グラヴァー**から洋式武器を購入

---

③**長州藩〔萩藩〕**⇒37万石の外様

1831年の防長大一揆を契機に，藩主毛利敬親が**村田清風**を登用（1837年～）。

A　藩債銀８万5000貫（約140万両）を整理

37カ年賦皆済仕法を実施したが失敗。のち越荷方の利益をつぎ込み完済。

B　紙・蠟の専売制を改革

C　**越荷方**の強化

下関（長門国）に設置。西廻り航路の北前船などの，本来上方に運ばれる積荷（＝越荷）を対象に，委託販売・貸倉庫・金融を行い収益を上げる。

☆その収益は，軍艦購入費にもあてられた。

---

④**肥前藩〔佐賀藩〕**⇒36万石の外様

藩主**鍋島直正〔閑叟〕**自らの改革，人材登用も積極的に行う（1830年～）。

A　財政の安定

あ　**均田制**の実施⇒土地の再分配

☆本百姓体制の再構築をめざし，町人地主の所有地の一部を藩に返還させるなどして小作地を解放した。

☆さらに藩の直轄地の小作料の納入も猶予した。

い　**有田焼〔伊万里焼〕**・石炭の専売制を強化

B　軍事改革

あ　洋学・西洋砲術の積極的導入

い　**反射炉**を備えた**大砲製造所**を建設（1850年）

---

⑤**土佐藩〔高知藩〕**⇒24万石の外様

藩主山内豊熙が「おこぜ組」とよばれる中・下級藩士の改革派を登用。財政を緊縮し商業資本と絶縁して一定の成果をあげるが，保守派に抵抗され中断する（1843年）。

☆のち**山内豊信〔容堂〕**が「新おこぜ組」（吉田東洋ら）を登用。

---

⑥水戸藩⇒35万石の親藩〔御三家〕

藩主**徳川斉昭**が，**藤田東湖**・**会沢安〔正志斎〕**ら尊王論者を登用（1829年〜）。均田制・西洋流の軍事改革・海防強化・**藩校弘道館**の設立などを行うが，保守派の反対などにより改革は挫折。

---

⑦その他

越前藩〔福井藩〕（⇒35万石の親藩）の**松平慶永〔春嶽〕**，**宇和島藩**（⇒10万石の外様）の**伊達宗城**などが，有能な中・下級武士を藩政の中心に参加させて改革を推進。

※幕末期の幕府

1845年，老中首座に復帰していた水野忠邦が再度罷免され，**阿部正弘**（福山藩主）が後任となる。

４　化政文化（宝暦・天明期の文化を含む）

①化政文化の特色

A　当時の世相を反映した，**享楽的・退廃的な傾向が強い**文化。

☆風刺や皮肉で現実の憂さを発散。

B　幕藩体制の動揺という現実を直視し，**批判的精神**に満ちる。

C　上方と並ぶ経済の中心地に成長した**江戸**の，幅広い階層の都市民が担う文化。

☆文化の内容が多種多様化。

☆江戸では美意識としての「粋」と，行動原理としての「通」が重視される。

D　都市と農村，三都と地方の文化的交流はさかんで，各地の豪商・豪農を中心とした**文化の地方普及**が著しい。

☆出版・教育の普及と交通網の発達がそれを支えた。

---

②化政文学

元禄文学に比べ，より通俗的で，政治・社会に題材をとる傾向がある（人間性は深く掘り下げない＝**戯作**）。三都の本屋の旺盛な出版活動と，**貸本屋**の増加により，庶民にも読書の習慣が広まった。

A　**小説**

あ　草双紙〔子供向けの赤本⇒大人向けの黒本・青本〕⇒挿し絵で引きつける

い　**黄表紙**⇒風刺・滑稽を基調とする通俗的絵入り小説

『鸚鵡返文武二道』**『金々先生栄花夢』（恋川春町）⇒寛政の改革で弾圧**

『江戸生艶気樺焼』（山東京伝）

う　**洒落本**⇒遊里を題材とする絵入り短編小説

『仕懸文庫』（山東京伝）⇒寛政の改革で弾圧

☆版元の**耕書堂**経営者**蔦屋重三郎**も財産の半分を没収される。

え　**読本**　⇒歴史・伝説を題材とした文章主体の小説

『雨月物語』（上田秋成）⇒大坂，前期読本

『南総里見八犬伝』『椿説弓張月』（曲亭〔滝沢〕馬琴）⇒江戸，後期読本

☆“勧善懲悪”“因果応報”を主題とする長編小説。

お　**滑稽本**⇒滑稽・笑いを基調とする絵入り小説

『東海道中膝栗毛』(十返舎一九)

『浮世風呂』『浮世床』(式亭三馬)

か　**合巻**　⇒数冊の黄表紙を綴じ合わせたもの

『偐紫田舎源氏』(柳亭種彦)⇒天保の改革で弾圧

き　**人情本**⇒恋愛を主題とした絵入り小説

『春色梅児誉美』(為永春水)⇒天保の改革で弾圧

B　**随筆**

『北越雪譜』(鈴木牧之)

☆越後国の農村で雪国の自然や生活を描写。山東京伝・曲亭〔滝沢馬琴〕ら江戸の文化人の交流でも有名。

C　**脚本**

あ　**人形浄瑠璃**

歌舞伎に圧倒され低調化，一中節・常磐津節・清元節・新内節などの唄浄瑠璃〔座敷浄瑠璃〕へと転化していった。

『仮名手本忠臣蔵』『菅原伝授手習鑑』『義経千本桜』(２世**竹田出雲**ら)

『本朝廿四孝』(**近松半二**ら)

い　**歌舞伎**

庶民生活を扱う生世話物が流行。並木正三が人形浄瑠璃の技法を取り入れて花道・せり出し・廻り舞台などを考案，大人気となる。

☆寛政期には中村座・市村座・森田座(のち守田座)の江戸三座が栄えた。

『東海道四谷怪談』(４世**鶴屋南北**)

『三人吉三廓初買』(河竹黙阿弥)⇒幕末期にかけての**白浪物**の名手

D　**詩歌**

あ　**俳諧**

『蕪村七部集』(蕪村〔与謝蕪村〕)⇒京都，写実的な句を詠む

『おらが春』　(一茶〔小林一茶〕)⇒信濃国

い　**川柳**

機知に富んだ表現で人情・世相・風俗を詠む，滑稽・風刺を基調とした俳諧。

☆**『誹風柳多留』(柄井川柳ら)**

う　**和歌**

万葉調　**賀茂真淵**(かものまぶち)，田安宗武(たやすむねたけ)，加藤千蔭(ちかげ)ら

古今調　**香川景樹**(かがわかげき)⇒**桂園派**(けいえんは)

☆平明な歌風を興す。

新古今調　村田春海(はるみ)

生活歌　**良寛**(りょうかん)

☆越後国の僧，独自の歌を詠む。

え　**狂歌**(きょうか)

機知に富んだ表現で人情・世相・風俗を詠む，滑稽・風刺を基調とした和歌。

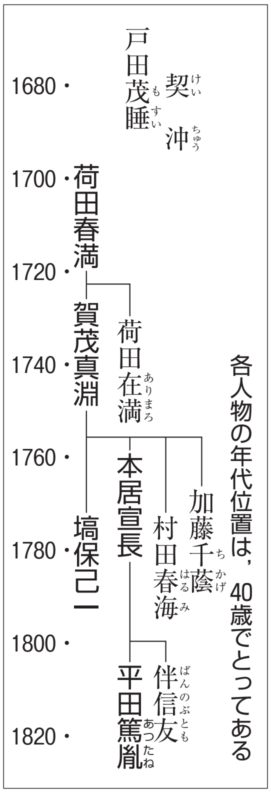
☆**大田南畝**(なんぽ)〔**蜀山人**(しょくさんじん)・四方赤良(よものあから)〕，**石川雅望**(まさもち)〔**宿屋飯盛**(やどやのめしもり)〕ら。

---

③国学の発達

古学派の研究法や歌学の刷新(さっしん)運動，**神道(しんとう)思想**などが源流となり発達。各地の神官・豪農・豪商に広まった。儒教・仏教などの外来思想を批判，『古事記』『日本書紀』などを研究し，古代人の生活・思想である**古道(こどう)**（＝日本古来の道）を理想化する復古主義をとった。

☆古い教理から抜け出せない儒学に対し，国学は政治・社会への批判精神が強かった。



国学者系統図

A　**荷田春満(かだのあずままろ)**（享保期）

京都から江戸に下り『**創学校啓(そうがっこうけい)**』を著し，８代将軍吉宗に提出。

B　**賀茂真淵(かものまぶち)**（宝暦期）

荷田春満に師事。『**国意考(こくいこう)**』『**万葉考(まんようこう)**』『歌意考』を著し，万葉集に“高く直(なお)き心”を見出した。

☆私塾「県居(あがたい)」を設立。

C　**本居宣長(もとおりのりなが)**（天明・寛政期）

伊勢国松坂の医師で，**賀茂真淵に師事**。“漢心(からごころ)”を捨て“真心(まごころ)”に生きることを重視し，“惟神(かんながら)の道”を説いた。

☆『**古事記伝**』『**（源氏物語）玉小櫛(たまのおぐし)**』『**秘本玉くしげ**』『玉勝間(たまかつま)』『うひ山ぶみ』を著した。

☆私塾「**鈴屋(すずのや)**」を設立。

D　**塙保己一(はなわほきいち)**（寛政期）

賀茂真淵にした盲目(もうもく)の学者。古典の収集・保存に心がけ，幕府の援助を受けて江戸に**和学講談所**を設け，『**群書類従(ぐんしょるいじゅう)**』を編纂した。

☆のちの国史学・国文学の基礎を築いた。

E　**平田篤胤(ひらたあつたね)**（天保期）

本居宣長の没後門人(ぼつごもんじん)を自称。神道と国学を融合して**復古神道(ふっこしんとう)**を唱え，民族主義・国粋(こくすい)主義的傾向を強めた。

☆復古神道は，篤胤の死後，弟子たちにより各地の神官・豪農・豪商に広まり，幕末の尊王攘夷運動に絶大な影響を与えた。

④洋学〔蛮学⇒蘭学⇒洋学〕の発達

A　洋学の先駆

あ　長崎の**西川如見**が，『**華夷通商考**』で海外の通商事情などを記す。

い　**新井白石**が，大隅国屋久島に潜入した**イタリア人宣教師シドッチ**を尋問。『**采覧異言**』『**西洋紀聞**』を著す。

う　**実学**奨励策をとる**８代将軍吉宗が，漢訳洋書輸入の禁を緩和**(1720年)。さらに**青木昆陽・野呂元丈**に**オランダ語を習得させる。**

B　洋学の発達

あ　『**解体新書**』　(**杉田玄白・前野良沢**・中川淳庵・桂川甫周)

☆ドイツ人クルムスの著した『解剖図譜』の蘭訳本『ターヘル＝アナトミア』を翻訳して1774年に刊行。扉絵・解剖図は小田野直武が描く。

い　『**蘭学事始**』　(**杉田玄白**，『解体新書』訳述の回想録)

う　『**蘭学階梯**』　(**大槻玄沢**)

☆杉田玄白・前野良沢の弟子が著した蘭学入門書。

え　『**西説内科撰要**』　(**宇田川玄随**，オランダ内科書の翻訳)

お　『**ハルマ〔波留麻〕和解**』(**稲村三伯**)

☆大槻玄沢の弟子が著した**初の蘭日辞書**。いわゆる“江戸ハルマ”。

か　**平賀源内**の研究

長崎で学んだ科学の知識をもとに，エレキテル(摩擦発電器)，寒暖計，不燃性の布などを発明。

C　洋学の展開

あ　『寛政暦』　(天文方の**高橋至時**，西洋暦を取り入れ作成)

い　『**暦象新書**』　(**志筑忠雄**，地動説や万有引力説を紹介)

う　『**大日本沿海輿地全図**』(**伊能忠敬，1821年完成**)

え　『気海観瀾』　(青地林宗，初の物理学書)

お　『**舎密開宗**』　(**宇田川榕庵**，イギリスの化学書を翻訳)

か　『日本植物誌』　(オランダ商館のスウェーデン人医師ツンベルグ)

D　**幕府の洋学研究機関**

1811年，天文方**高橋景保**の建議で**蛮書和解御用**を設置。フランスの百科全書『厚生新編』などを翻訳。

☆のち洋学所(1855年)⇒**蕃書調所**(1856年)⇒洋書調所(1862年)
⇒開成所(1863年)へと改編。

☆開成所はのちに明治政府のもとで開成学校となり，さらに東京大学となった。

E　幕府の洋学統制

西洋文明の移入は医学・兵学・地理学などの科学技術に限定され，実学としての性格が強くなった。

☆幕末の開国論者**佐久間象山**（しょうざん）（松代（まつしろ）藩士）は，「東洋道徳・西洋芸術（＝技術）」を説いた。

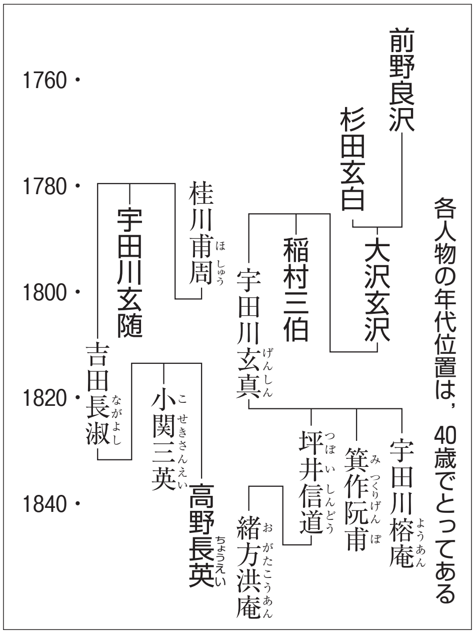
あ　**シーボルト事件**（1828年）

国禁（こっきん）であった日本地図のもち出し未遂。オランダ商館の**ドイツ人医師シーボルト**は国外追放，天文方の**高橋景保**は獄死。

☆シーボルトには『**日本**』などの著書がある。

い　**蛮社の獄**（ばんしゃのごく）　　　（1839年）

モリソン号事件（1837年）を契機とする幕政批判などを理由に，**尚歯会**（しょうしかい）〔**蛮学社中**（ばんがくしゃちゅう）〕の蘭学者に弾圧を加える。『**慎機論**（しんきろん）』の**渡辺崋山**（わたなべかざん），『**戊戌夢物語**（ぼじゅつゆめものがたり）』の**高野長英**（たかのちょうえい）らを処罰，小関三英（こせきさんえい）は自害した。



洋学者系統図

⑤儒学と教育

A　幕府の教育機関

1790年　寛政異学の禁で朱子学を正学とする。

1797年　聖堂学問所を官立化し，**昌平坂学問所〔昌平黌〕**とする。

B　**藩校〔藩学〕**⇒全国に約250校

藩校は，初め朱子学を主とする儒学や武術を学ばせるものが多かったが，のちには国学や洋学も取り入れ，年齢や学力に応じた学級制もみられるようになった。

あ　**明倫館　（長州藩，毛利氏）**

い　養賢堂　（仙台藩，伊達氏）

う　明倫堂　（尾張藩，徳川氏）

え　**時習館　（熊本藩・細川重賢）**

お　**造士館　（薩摩藩・島津重豪）**

か　**興譲館　（米沢藩・上杉治憲〔鷹山〕が再興）**

き　修猷館　（福岡藩，黒田氏）

く　**明徳館　（秋田藩・佐竹義和）**

け　明倫堂　（加賀藩，前田氏）

こ　**日新館　（会津藩，松平氏）**⇒はじめ保科氏の稽古堂

さ　致道館　（庄内藩，酒井氏）

し　**弘道館　（水戸藩・徳川斉昭）**

C　**郷校〔郷学〕**

藩の援助を受け，藩士に限らず庶民の教育も担った。

あ　**閑谷学校（岡山藩・池田光政）**

い　含翠堂　（摂津国平野）

う　有備館　（仙台藩）

D　私塾

あ　**弘文館**　**（林羅山〔道春（どうしゅん）〕）**　⇒上野忍ヶ岡に設立された**朱子学塾**
　☆のち湯島に移転，**聖堂学問所**となる。

い　講習堂　（松永尺五（せきご））　⇒京都二条に設立された朱子学塾

う　**藤樹書院（中江藤樹（とうじゅ））**　⇒近江国小川村に設立された陽明学塾

え　**花畠教場（はなばたけきょうじょう）（熊沢蕃山（ばんざん）〔了介（りょうかい）〕）**⇒岡山藩に設立された陽明学塾

お　**古義堂（こぎどう）**　**（伊藤仁斎（じんさい））**　⇒**京都堀川**に設立された**古学塾**

か　**蘐園塾（けんえんじゅく）**　**（荻生徂徠（おぎゅうそらい））**　⇒**江戸**に設立された**古学塾**

き　**懐徳堂（かいとくどう）**　**（中井甃庵（しゅうあん）ら）**　⇒**大坂**に設立された**準官学の町人塾**
　☆初代学主は三宅石庵（みやけせきあん），のち中井甃庵やその子**中井竹山（ちくざん）・履軒（りけん）**らが学主となる。
　☆**『出定後語（しゅつじょうごご）』**の**富永仲基（とみながなかもと）**や**『夢の代（ゆめのしろ）』**の**山片蟠桃（やまがたばんとう）**など，異色の合理主義学者を輩出（はいしゅつ）。

く　**芝蘭堂（しらんどう）**　**（大槻玄沢）**　⇒**江戸**に設立された**蘭学塾**
　☆**新元会（しんげんかい）〔おらんだ正月〕**を開催。

け　**咸宜園（かんぎえん）**　**（広瀬淡窓（ひろせたんそう））**　⇒**豊後国日田（ひた）**に設立された**全国最大規模の私塾**

こ　**洗心洞**　**（大塩平八郎）**　⇒大坂に設立された陽明学塾

さ　**適塾（てきじゅく）〔適々斎塾（てきてきさいじゅく）〕（緒方洪庵（おがたこうあん））**⇒**大坂**に設立された**医学・洋学塾**
　☆**福沢諭吉（ゆきち）・橋本左内（さない）**・大村益次郎（ますじろう）らが学ぶ。

し　**鳴滝塾（なるたきじゅく）**　**（シーボルト）**　⇒**長崎**に設立された**診療所併設の医学・洋学塾**
　☆**高野長英**・小関三英・伊東玄朴（いとうげんぼく）らが学ぶ。

す　**松下村塾（しょうかそんじゅく）**（吉田松陰の叔父（おじ））⇒**長門国萩（はぎ）**に設立，**吉田松陰（しょういん）**が教授。
　☆**高杉晋作・久坂玄瑞（くさかげんずい）・伊藤博文・山県有朋（やまがたありとも）**らが学ぶ。

E　**庶民教育**

あ　**寺子屋**〔手習所〕

生産活動の向上と商業の発達を背景に，師匠が男女に**読み・書き・算盤**など日常生活に役立つことや，幕府・藩の法，道徳などを教える。富裕な町人・村役人・僧侶・神職・牢人などにより運営された。

☆『庭訓往来』『六諭衍義大意』『女大学』などを教科書として使用。

☆幕府の文書支配主義の影響もあり，**当時の日本の初等教育は世界屈指の水準を誇った。**

い　心学舎

享保期，**京都**の町人**石田梅岩**が，商人を中心とする庶民の生活倫理として**心学**〔**石門心学**〕を唱え，『**都鄙問答**』を著す。

☆儒教道徳に仏教や神道の教えを加味。

☆弟子の**手島堵庵**（**京都**）やその弟子**中沢道二**（**江戸**）が全国に広める。

〈***Note***〉

⑥思想の発達

A　政治・社会思想の発達

あ　幕藩体制維持・改良の方法論（＝**経世論**（けいせいろん））の展開（17 世紀後半～）

熊沢蕃山〔了介〕（陽明学），**荻生徂徠**（おぎゅうそらい）**（古学）**⇒武士帰農論

太宰春台（だざいしゅんだい）**（古学）**⇒商業藩営論

い　幕藩体制批判思想の出現（18 世紀半ば～）

『**自然真営道**（しぜんしんえいどう）』『統道真伝（とうどうしんでん）』（陸奥国八戸（はちのへ）の医師**安藤昌益**（あんどうしょうえき））

☆“万人直耕（ばんにんちょっこう）の自然世（しぜんせい）”を理想とし，身分制社会を鋭く批判。

う　経世論の発達（19 世紀～）

『**稽古談**（けいこだん）』『経済談』　**（海保青陵**（かいほせいりょう）**）**⇒藩重商主義

『**西域物語**（せいいき）』『**経世秘策**（けいせいひさく）』**（本多利明**（ほんだとしあき）**）**⇒貿易論・蝦夷地などの開発論

『**経済要録**』『**農政本論**』『宇内混同秘策（うだいこんどうひさく）』**（佐藤信淵**（のぶひろ）**）**

⇒産業国営化・貿易論

B　**尊王思想**（そんのう）の発達

当時の尊王思想は「将軍が天皇の委任により政権を預かる」と捉え，一般に幕府を否定するものではなく，朝廷を尊（たっと）ぶことにより幕府の権威を護（まも）ろうとするものが多かった。

あ　尊王思想の発生

水戸藩の前期**水戸学**，山崎闇斎（あんさい）（朱子学者〔南学（なんがく）〕）の垂加（すいか）神道。

☆水戸学は朱子学を軸に神道・国学を統合し，天皇崇拝と封建秩序の確立を説いた。

い　**尊王事件**の発生

宝暦事件（ほうれき）**（1758 年，竹内式部**（たけのうちしきぶ）**）**⇒**京都**の国学者

明和事件（めいわ）**（1767 年，山県大弐**（やまがただいに）**）**⇒**江戸**の『**柳子新論**（りゅうししんろん）』を著した兵学者

う　尊王論の普及

高山彦九郎，蒲生君平（がもうくんぺい）（『山陵志（さんりょうし）』の著者），**頼山陽**（らいさんよう）（『**日本外史**（にほんがいし）』の著者）など。

え　幕末の**尊王攘夷運動**への影響

平田篤胤の復古神道

☆篤胤の死後，とくに中部地方・関東地方中心に広まる。

水戸藩主徳川斉昭のもとでの**後期水戸学**

☆藤田幽谷，**藤田東湖**（『**弘道館記述義**』の著者），**会沢安〔正志斎〕**（『**新論**』の著者）など。

吉田松陰の松下村塾

松尾多勢子ら女性の運動家

C　哲学的思想の登場

三浦梅園が『玄語』で宇宙論・自然哲学を説き，“条理学”を唱える。

⑦化政美術

A　**浮世絵**

あ　『**弾琴美人**』『ささやき』『五常』(**鈴木春信**)

☆1765年，一枚刷りの多色刷浮世絵版画の**錦絵**を創始。

い　『**婦女人相十品**』『高名三美人』『当時全盛美人揃』(**喜多川歌麿**)

☆蔦屋重三郎のもとで，美人絵の名手として長く活躍。

う　『**市川鰕蔵**』『**大谷鬼次**』　(**東洲斎写楽**)

☆蔦屋重三郎のもとで，役者絵･相撲絵の名手として短期間のみ活躍。

え　『朝比奈小人嶋遊』　(歌川国芳)

☆幕末期にかけて，世相や政治を批判する錦絵を制作。

お　『**富嶽三十六景**』　(**葛飾北斎**)

か　『**東海道五十三次**』『名所江戸百景』(**歌川〔安藤〕広重**)

☆開国後，北斎・広重はモネ・ゴッホなどフランス印象派のジャポニズム〔日本趣味〕に多大な影響を与えた。

B　写生画

あ　『群鶏図襖』　(伊藤若冲)

い　『**雪松図屛風**』『保津川図屛風』(**円山応挙**)

☆**円山派の祖**，遠近法を採用。

う　『**柳鷺群禽図屛風**』　(**呉春〔松村月溪〕**)

☆円山派から独立した，**四条派の祖**。

C　**文人画**⇒中国の**南画**の影響を受けた，文人・学者などが余技として描いたもの。

『**十便十宜図**』(**池大雅・蕪村〔与謝蕪村〕ら**)

☆各地を遊歴した浦上玉堂，江戸の谷文晁とその弟子**渡辺崋山**(『**鷹見泉石像**』『一掃百態』)，豊後国の田能村竹田も著名な文人画家。また，美濃国大垣藩の絵馬細香のような女性画家もいた。

D　**西洋画**

あ　『**西洋婦人図**』　(**平賀源内**)

い　『**不忍池図**』『三囲景図』(**司馬江漢**)

☆平賀源内に学び，**腐食銅版画〔エッチング〕**を創始。

う　『**浅間山図屛風**』　(**亜欧堂田善**)

⑧生活と信仰

A　三都・城下町の娯楽

芝居小屋，**相撲**，**寄席**，**湯屋〔銭湯〕**，**髪結床**，遊郭，**瓦版〔よみうり〕**など。

B　農村・在郷町の娯楽

村芝居，猿廻し，獅子舞，万歳，瞽女や座頭の歌など。

C　**寺社参詣**の流行

あ　寺社の世俗化

縁日，**開帳**・出開帳，**富突〔富くじ〕**など。

い　旅の流行

湯治，物見遊山，寺社参詣など。

☆『**菅江真澄遊覧記**』は，三河国の国学者が約40年にわたり東北各地を旅してまとめたもの。

う　寺社参詣の例

伊勢神宮（伊勢国，内宮・外宮への**御蔭参り）**，善光寺（信濃国），金比羅宮〔金刀比羅宮〕（讃岐国），成田不動（下総国）など。

え　聖地・霊場への**巡礼**

四国八十八カ所（弘法大師〔空海〕信仰），西国三十三カ所（観音信仰）など。

D　民衆宗教の発生⇒明治期には**教派神道**となる

あ　**黒住教**（文化期，**黒住宗忠　〔備前国〕**）

い　**天理教**（天保期，**中山みき　〔大和国〕**）

う　**金光教**（安政期，**川手文治郎〔備中国〕**）

E　民間行事

あ　**五節句**（人日・上巳・端午・七夕・重陽），彼岸会，**盂蘭盆会**など。

い　日待・月待・**庚申講**・富士講など。

☆各地に庚申塔がつくられた。

第 16 講　確認テスト

1　大御所政治を展開した11代将軍とは？

①家重　②家治　③家斉　④家慶

2　異国船〔無二念〕打払令が出された年とは？

①1806年　②1825年　③1837年　④1842年

3　1837年に大坂で乱を起こした大塩平八郎は何学者であったか？

①朱子学者　②陽明学者　③国学者　④蘭学者

4　天保の改革を行った老中首座とは？

①松平定信　②水野忠邦　③阿部正弘　④堀田正睦

5　アヘン戦争が始まった年とは？

①1825年　②1837年　③1840年　④1842年

6　「三方領知替え」と関係のない藩を一つ選べ。

①川越藩　②庄内藩　③長岡藩　④薩摩藩

7　薩摩藩と関係の深い，長崎のイギリス商人とは？

①グラヴァー　②オールコック　③パークス　④アーネスト＝サトウ

8　長州藩主毛利敬親が，1837年以降，藩政改革のために登用した人物とは？

①村田清風　②大村益次郎　③長井雅楽　④高杉晋作

9　水戸藩主徳川斉昭に登用された，『新論』を著した尊王論者とは？

①藤田幽谷　②藤田東湖　③会沢安〔正志斎〕　④武田耕雲斎

10　『国意考』『万葉考』を著した国学者とは？

①荷田春満　②賀茂真淵　③本居宣長　④平田篤胤

11　大坂に設立され，富永仲基・山片蟠桃らを輩出した町人塾とは？

①蘐園塾　②懐徳堂　③咸宜園　④適塾

12　18世紀半ば，一枚刷りの多色刷浮世絵版画である錦絵を創始した画家とは？

①菱川師宣　②鈴木春信　③葛飾北斎　④歌川国芳

解答

1	③	2	②	3	②	4	②	5	③
6	④	7	①	8	①	9	③	10	②
11	②	12	②						